

題名：横浜労災病院で経鼻高流量酸素療法を施行された患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	経鼻高流量酸素療法 (High Flow Nasal Therapy; HFNT) 施行中の1型急性呼吸不全患者における HACOR score、Updated HACOR score の外的検証と新しい予測モデルの開発 (-)
当院の研究責任者 (所属)	齊藤 祐弥 (中央集中治療部)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	<代表研究機関> 聖路加国際病院 集中治療科 岡野 弘(研究代表者) <共同研究機関> 名古屋大学医学部附属病院 春日井 大介 横浜労災病院 齊藤 祐弥 防衛医科大学校病院 谷口 裕亮 福島県立医科大学 山本 良平 自衛隊中央病院 寺山 毅郎
本研究の目的	経鼻高流量酸素療法を使用して、気管挿管やその合併症を避けることで、患者さんの予後を改善することが期待されています。しかし、適切なタイミングで気管挿管を行わないと、死亡リスクが高まる可能性があります。そのため、経鼻高流量酸素療法を施行する際には、治療失敗を正確に予測するスコアが必要です。この研究では、経鼻高流量酸素療法施行中の急性呼吸不全の患者さんを対象に、新しい予測モデルを開発することを目的としています。
研究の方法 (利用する試料・情報)	この研究の対象は、当院で2020年4月1日から2024年3月31日までに経鼻高流量酸素療法を使用した18歳以上の急性呼吸不全の患者さん(COVID-19、外傷を除く)です。 この研究では、患者さんの集中治療室入室年月日、年齢、性別、身長、体重などの情報を使用します。また集中治療室入室中の動脈採血検査の結果も使用します。 研究実施期間：研究実施許可後～2028年3月
利用する試料・情報の 該当期間	2020年4月～2024年3月

<p>試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法</p>	<p>データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。データと研究の対象の方との対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：齊藤 祐弥 (所属：中央集中治療部)</p>
<p>備考</p>	